

平成 26 年度第 4 回宮崎県河川整備学識者懇談会

議事録（要約）

1. 開催日時

平成 26 年 11 月 11 日（火）13：30～16：00

2. 開催場所

日向大王谷コミュニティセンター（大会議室）

3. 議題

3.1 開会の挨拶

3.2 議 事

- (1) 第 1 回懇談会の指摘事項と対応
- (2) 対象河川における流域の特徴
- (3) 環境調査の途中経過報告
- (4) 整備区間・対策の検討結果
- (5) 整備における環境への配慮事項
- (6) 河川整備計画(原案)について
- (7) 今後のスケジュール

4. 議事録

議事	議事要旨
(1) 第 1 回懇談会の指摘事項と対応について	<p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回懇談会の指摘事項と対応について説明していただいた。このことについてはよろしいですね。
(2) 対象河川における流域の特徴	<p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊野江川が突出して種の多様性が高い。面積的には非常に狭く、流域も短いにも関わらず、生物多様性が非常に高いという最大の原因は特徴的な河川環境にあると考えられる。この河川環境を、河口干潟、塩性湿地と底生動物で表現しているが、この塩性湿地には植生も含まれているのか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植生も含めて記載している。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 干潟、湿地という言葉では、植生という概念が表現されていない。現地

	<p>を見たら分かるように、非常に狭い空間のなか、塩沼地の植生が複雑に入り組んだ形で多様なハビタットを作っているために、特異的な種の多様性を有していることを表現するには、もう少し工夫が欲しい。熊野江川が特異な種の多様性を持つことの裏づけを説明できないと感じる。</p> <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 承知しました。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖田川の河川特性は、ハマボウ等の河畔林が連続していることだと感じる。 ・ 対象河川の中で鳴子川は、出現種数は多少あるようだが、生息環境としては非常に悪いように感じる。本当に町の近くを流れていると感じた。塩見川については、今回初めて見たが、割と良い川だと感じた。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 塩見川についても、ヨシ群落とアイアシ群落を含めて、非常に広い植生を有している。この様な潮間帯で塩沼環境が存続する植生環境であっても、他の動物等の生息環境に大きな影響を持つ。この様な特徴的な河川環境の表現の中に、一つも植生環境の豊かさを感じ取る言葉がないので、改善して欲しい。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本文をまとめるときに、特徴的な河川環境の表現を考慮して欲しい。 ・ 熊野江川の河口付近の右岸支川は、熊野江川の流域には入らないのか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊野江川の河口の基点は、支川合流点よりも上流側にあるため、流域に含んでいない。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この左支川は別の普通河川と考えてよいか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その通り。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 了解した。
(3) 環境調査の現地調査途中経過報告	<p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第三回懇談会にて、話があった文献資料の取り扱いについては、9 ページの方法でよろしいか。
(4) 整備区間・対策の検討結果	<p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖田川の右岸側の嵩上げ区間ですが、津波が海岸のほうから入ってくるというようなことを現地視察の際に聞いた。それならば、川のほうを嵩上げて治水安全度を高めるのは納得しにくい。整備の理由が説明しにくいのでは？この様に考えた理由として、沖田川の嵩上げ区間の一番河口側のところに一部河畔林ができており、10 号線よりも上流に行くと再度ハマボウが出てくる。この右岸側の河畔林は重要な場所と感じる。そう考えると、ここは嵩上げと河畔林の取り合いになるので、私は、その嵩上げの重要性を理解するのが困難であると感じる。 ・ 塩見川の河口部の左岸側には岩礁が少し出ている、航空写真を見ると、天然の水制みたいなものを確認できる。この区間が嵩上げ区間の Ok700

	<p>に含まれていると思うが、0k750あたりに一番大きく出っ張った岩礁が、河川整備のときになくなると、まずい感じがする。この断面はパラペットで護岸の前面に碎石を入れるということになっているが、ここで下手すると、天然の水制の前に淵の様な深みがなくなってしまう可能性があるため、計画を立てるときに、そういった環境要素を十分配慮する必要があると感じる。</p> <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 ページに「農地などの土地利用状況などを考慮」とあるが、津波で農地が塩害を受ける地点に対して、嵩上げをしなければいけない積極的な理由があるのか？ <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回説明済みだが、農地に海水が入ったときの塩害の被害というのは非常に顕著という理解から、見直している。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 嵩上げ区間が追加することで工事期間が延長した場合の環境への影響をどの程度踏まえているのか。「環境に及ぼす影響の有無・程度を把握するため」と書かれているが、工事期間も含めて当然影響が大きくなると感じる。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農地の区間を対象区間に加えた理由は会長の言うとおりで、追加した部分は堤防が沈下したときに海水が流入防ぐ対策となるため、液状化区間になると考える。 ・ 具体的には、熊野江川の 0k300 地点の農地を保護する為に液状化区間が延長されている。 ・ 補足すると、液状化対策の区間は、現地の地質調査等を今後検討した上で、必要のないと判断する可能性も考えられる。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦先生よろしいか。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 矢板を打つ工事という理解でよろしいか。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 液状化対策と嵩上げ、ほかには。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水門と自動閉鎖化。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対策方法についてもう一度説明してください。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対策については資料-4 の 2 ページの通りです。 ・ 農地部分で追加になる部分は、主に 3 番目の液状化対策の工法になると考えている。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 堤防嵩上げの場合、土堤そのものを嵩上げする場合とパラペットをつけて高くする場合の二通りある。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その通り。今回の場合は土地利用状況等から、結果的にパラペット構造
--	---

	<p>が多い結果となっている。</p> <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パラペットとは何か。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 頭の部分だけをコンクリート構造物で、波返しみたいな形をつける構造と考えている。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤岩川では両岸とも嵩上げになっているが、これは住宅地の方に浸水するということで良いか。右岸側には農地も無いが、奥の家屋が浸水するということでよいか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴルフ場と左岸側の公園と一部国有林等を防護する計画としている。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 塩見川の魚類調査場所がすくない。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の資料で記入漏れとなっているが、嵩上げや液状化対策区間も調査をしている。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほど会長から頂いた沖田川右岸側の嵩上げ部分の必要性についてだが、レベル 1 津波では海側からの侵入は無いと考え、川だけの防護を考えている。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 了解した。では、下流の河畔林の保全についても考えて欲しい。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 承知した。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖田川における過去の護岸工事で、ハマボウとハマナツメの群落が消滅した。問題は、護岸の工法だと考えられる。将来、嵩上げなどの工事をするときには工夫をして欲しい。護岸の特性から寄せつけない環境を作っていると考えられるため、配慮が必要。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳴子川のコアマモの群落はどこか。資料の左岸側にある緑色のベルト状のものは何か。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これは河畔林です。 ・ 9 月の調査時点で、樹木が優占していたため樹木の群落として分類している。本日の現地調査時は葉が無くなっていて目立たなかっただけ。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 島の上流部が緑色で塗られているのはなぜか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これは、水神様を祭る島の樹木を表現している。 ・ コアマモは、0k200 地点の左岸側に緑で塗り潰して黒で囲った地点。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳴子川の視察地点右岸側を資料ではグリーンのベルトで示しているが、ここにはコンクリート護岸があったと思うが、これは道路上の並木を表しているのか？
--	--

	<p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路と護岸の境目の土の部分に生えている植生。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生態学・植物社会学の概念では、これを河畔林と表現しない。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応用生態工学会では、河畔林として扱っている。水辺工法研究会で、農学部伊藤先生から河畔林の説明をされた際も、範疇に入っている。
<p>(5) 整備における環境への配慮事項</p>	<p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼矢板とはどのように工事をして、どういう改変が行われるのか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼矢板の打ち込み方法は、振動で打ち込む方法と、圧入させる方法等がある。 ・ 施工の環境に影響を与えるのは、打つ場所、打つ機械をどこに設置するのか。例えば、水面を埋めて重機を載せて打つ場合だと大きな改変となる。その際は仮栈橋を設置し最小限に影響を抑える。圧入機の場合だと、仮栈橋なども要らず矢板を飛び越えて打っていくやり方もある。 ・ 具体的な方法は、地盤の強度をみながら、使えるやり方を考える必要がある。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振動で打ち込む場合だと、濁りなどで周囲の環境に影響を与えそう。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハイブロ等で打ち込む際に、濁りが発生する例はあまりない。 ・ 基面を床掘りする場合に濁りなどが出てくる可能性があると考えられる。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 了解した。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以前、鋼矢板を打ち込んだ際に地下水の流れが変化し、湧水が止まったことがある。淡水性の生物がいるのであれば、地下水の影響もあるのではないか。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊野江川に関しては非常に重要な指摘だと思う。イドミミズハゼは、必ず淡水が湧き出る河口域の石の下に生息している。このような環境が少ないために、絶滅危惧になりつつある。 ・ また、少し上流には常時淡水が流れている箇所があり、この一体にはタケノコカワニナが生息している。淡水域と汽水域がつながっていることで、生活史の全部を確認できる良い環境が残っている。 ・ クマノエミオスジガニに関しても、滞筋に淡水が入ってくるもしくは伏流水がある、希少な環境だからこそ生息できている。 ・ 5 ページに「春～夏季にかけての、魚類・底生動物等の産卵期や……」と書かれているが、クマノエミオスジガニの場合の産卵期は秋～冬季にかけて。構成する生物によって繁殖期はかなり幅広くなるため、一概に全河川で同じ文章が出来てくるのは、環境に配慮しているとは言えない。 ・ むしろ工事でのどのぐらい影響が出るのか気になる。生物への影響がそんなに大きくないような工事ができるようであれば、それで良いと思う。

川側にブルドーザーみたいなのが入って鋼矢板を打ち込む形の様な工事方法のほうが気になる。工事の範囲が決まって、こういうことをやらなきゃいけないといったときに、結局それでどういう影響が出るのかが今のところ見えない。工事期間や季節に関しても、河川によってかなり違う。少なくとも熊野江川では、冬にやると、クマノエミオスジガニの親がちょうど卵を持っている時期なので、影響が出るようなところで工事をしないとと思うが、気になる。

会長)

- ・ クマノエミオスジガニの産卵期は、何月から何月と特定できるか。

委員)

- ・ 特定は出来るが、今はできない。

会長)

- ・ この様な工事は、台風や梅雨の時期は避けるため、冬場にやりがち。時期が特定できると工事期間を選択しやすい。
- ・ 低水路あるいは高水敷の部分に入って鋼矢板を打つのかという点はどうか。

事務局)

- ・ 可能な限り陸上からの施工をまず試みたいと思う。説明でも言ったが、無理であれば、仮栈橋とか、そういったものをやっていきたい。

会長)

- ・ 低水路とか、そういったところには環境の負荷を与えないのが基本だということが良いか。

事務局)

- ・ はい。それで結構です。

委員)

- ・ 季節の問題もあるが、21 ページのコアマモについての書き方は余り適切じゃないと感じる。これは決めつけている。1k700 付近のコアマモが、周辺水域にも分布するコアモの種子で定着して分散するという言い方は決めつけです。河野先生は分かると思うが、この類の海草類は通常地下茎で増えていて、一応種子でも増えるが、種子が個体群を維持しているところは非常に少ない。だから、地下茎がなくなるような工事では、多分なかなか入ってこない。これがコアモとかアマモの減少理由だと思う。だから、種子がそばから流れてくるから放っておけば良いという話にはならない。環境が残っていれば放っておいても大丈夫だと思うが、余りこういう書き方をしないほうが良い。

会長)

- ・ 今、質問のあった周辺水域に分布するコアモ群落はどこか。

事務局)

- ・ 20 ページの環境情報図の青丸で囲まれているのがコアモ。この近傍の群落は、1k600 の左岸側に位置する緑色の島のようなものが最寄りだと思う。ここでは、きちんと保全することが最終的に期待できることにならると思い、ここで書いている。

委員)

- ・ 私が河口で見たところでは、昔、富高川の上流付近にまとまった群落が存在した。塩分濃度の高い下流ではなく、結構上流。今日も随分流れていたが、上流に大群落があるはず。今回の調査範囲には恐らく入ってい

	<p>ない。この河口付近の片鱗が、1k600 というのは先ほど説明があったところのコアマモであって、水中の大群落はたしか上流のほうにあるはず。</p> <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ある。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本川、富高川のどちらか。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富高川も本川も両方。魚類の調査地になっている場所が凄い。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分からないため、種子の分散という特定の記述はやめるべき。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 承知した。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 24 ページの赤岩川の陸地・砂地の部分にカワヂシャの丸がついている。カワヂシャは赤岩川にはよくあると思うが、もっと上流にもあるので、この場所は少しずれているのではないか。工事するところではなく、少し前面の水際。砂で乾燥している場所は生態的にありえない。恐らくポイントの落とし間違いではないか。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 25 ページの一番下にコアジサシについて「施工中のモニタリングを…」と書かれているが、例えば熊野江川の場合、ミオスジガニのモニタリング等でも可能なのか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前もって整理できていれば可能だと考えている。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コアジサシは全国的なものだが、ミオスジガニは熊野江川が原点なので気になる。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 承知しました。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤岩川の右岸側の築堤について、先ほどゴルフ場を守るというふうに関心したが、ゴルフ場は守るべき対象に入るのか。水田とか、営農とか営業とかいうところは守るべき場所には入っていないはず。民家とか、そういった居住空間が優先されて守るべき場所というふうには私は理解している。本当にゴルフ場は守るべき場所で良いのか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地調査資料の 15 ページに浸水想定図と重なっている部分になる。ほとんどがゴルフ場だが、一部そのゴルフ場から回り込んで国道沿いのところまで浸水がたどり着いている箇所があり、先ほどゴルフ場がメインという説明をしたが、基本的にはここまで含んで防護すると考えている。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奥の民家を守るために、ここをふさぐという理解で良いか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その通り。
--	---

	<p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖田川河口部の左岸側の護岸工の水面部分についてだが、ここは河川敷の空間が広いので、9 ページの横断面図の拡大図のように、護岸工の根元を水面にする必要はない。ここはやっぱり周りの干潟や低湿地環境を保全する絵にする必要がある。断面に余裕があるにも関わらず、こういう単調な水辺のような描き方をするのはまずい。
<p>(6) 河川整備計画原案について</p>	<p style="text-align: center;">【共通】</p> <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 陸域にはどういう鳥がいるとあるが、これは全体的に、夏までの調査で拾い上げであって、これに冬鳥が入ってくると、優占種の順番からいくと多分冬鳥のほうが数的には多くなってくる。考慮すべき。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水質のことは各河川全部に書いてある。例えば熊野江川の場合 16 ページの (2) 水質の最後に「良好な水質を維持していくことが課題です」と、似たような表現が全く同じように書いてある。これが課題ということは、河川課が主体的にそれを維持することを言っているのか。恐らく河川課だけではなく、地域住民、自治体との連携とか、そういった総合的な取り組みがあって維持していくことになるはず。この表現では、河川課が主体的、能動的に維持していくことが念頭にあるような受けとめ方がされる。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> アカウミガメの写真が 2 カ所出てくるが、みやざきデジタルミュージアムの同じ写真ではなく、アカウミガメを守る会の別の写真をお借りすべき。 資料の 5 にしか五十鈴川についての検討がないが、五十鈴川は何もしなくて良いのか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 五十鈴川については、既定の計画をそのまま踏襲するだけでは無理ということで、津波対策以外の洪水対策も含めてゼロベースで見直すべきと国の助言などいただき、全てゼロベースで見直すことにしている。よって、今回は環境調査のみ報告している。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後水質を維持することが課題だとあったが、熊野江川は別として、その他は住宅地を流れてきている。そうすると、下水道の整備状況などが密接に関係してくるので、そういったことの押さえが必要なのではないか。ただ、水質を維持することが課題ですという言葉で簡単に書いてあるが、実際その課題を本当に解決するためには、その河川を取り巻く流域の生活污水とか下水を押さえが 1 つあって、課題だという表現にしてもらいたい。工業汚水は沖田川ぐらいだろうということで考えると、あそこは旭化成が責任を持ってやっているということですから余り問題ないのかなと思う。 同じようなことが、例えば水の利用でも、ほとんど農業用水と言葉は書いてあるが、いまだに井戸水を飲料水で使っているところもあるのではないか。河川から直接とって水道として利用しているところは無いだろうが、地下水という形での利用はあるのではないか。水質との絡みで、

そういったところまで把握できているのであれば、そういったところを表現したほうが良いと感じる。だから、まず教えてもらいたいのは、延岡、日向、2つの市の下水の整備状況は何パーセントぐらいなのか。

【熊野江川について】

委員)

- ・ (6) 自然環境の下から6行目ぐらいに「特定外来生物のソウシチョウが確認されています」というのがあるが、この地域の自然環境の中に入れていいのだろうか。ソウシチョウがふえてくると、もともとの在来種であるウグイス等が駆逐されて、どんどん少なくなる可能性があるため、文章的にちょっと違うと感じる。

会長)

- ・ 熊野江川の底生動物の豊富さは特異にも関わらず、表現が一緒。例えば鳴子川の底生動物相の表現と熊野江川の底生動物相の表現は同じでいいのか。違うはず。

委員)

- ・ 24ページの4.2.3を見ると、「河川利用については、今後も水遊びや釣り、散策等、住民の憩いの場として」と書いてある。そういう事実があるかないかがわからないことも全て書かれてあり、3年ほどそこに通ったが、水遊びとか釣りをしている人を余り見たことがない。そういう事実があるなしにかかわらず、そうするのか。熊野江川ではと始まるなら、せめてそこら辺は考えていただきたい。
- ・ 水質とかについても、伏流水とか、そういう環境もあるので、何か特徴をもう少し出して欲しい。そこも「良好な水質を維持していく」というのは全く同じ言い方だが、同じような文章がずっと単調に続いていて、そこら辺はもう少し工夫が必要だと感じる。

委員)

- ・ 21ページの河川整備の実施に関する事項の(3)河川環境の整備と保全に関する事項については、ちょっと書き足さないといけない。河口部の豊かな底生動物をいかに保全するかということも含めて、熊野江川はちょっと、同じ文章だけで横並びにはいけないような感じがする。今回見た川では、多分これは県北で一番いい川。なので、横並びでは、今日来ている行政の担当者にはその特異性というのがある程度理解できたとしても、代わったときにその思いが多分伝わらない。熊野江川は何かちょっと違う表現をしなければ、この思いや雰囲気は伝わらないと感じる。

【沖田川について】

委員)

- ・ 「沖田川の良好な水利用の現状を保全する」とあるが、沖田川の水は、話を聞いたところ農業用水に使われていない。何に使われているか。沖田川の支流の井替川の下にはサイフォンが通っていて、あそこの農業用水はほとんど岩熊からの水で賄われている。だから、ここは理解がちょっと違うと感じる。

会長)

- ・ 6ページの最後の段落に沖田川のことを説明しているのに、「沖田川では」

	<p>という書き出しになっている。これは「河口域では」ではないか。</p> <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場でも言ったが、浜川の河口、水門のところは植生が全くゼロです。これは、有機物汚濁、臭気等があるから植生が入らないことが理由と考えられる。あそこはずっと三面張りのようで、植生がほとんど生育していない。流量が確保できているなら、何らかの形で植生が少し出現するような環境づくりをするべき。例えばリビングフィルターみたいな効果で、生物がもっと多くなるような環境維持も植生を通してできるんじゃないかなと感じる。現場で話を聞いた際、来年度から樋門の周辺の改善を少し図るという話があったので、そういった取り組みをぜひ進めたい。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 海岸に面したところは河川課の担当ではないのか。沖田川の右岸を嵩上げ、液状化対策をするよりも、海岸に面したところのほうが危なそう。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖田川の海岸の部分も河川課が所管しているが、海岸に対する津波対策についても、海岸保全基本計画を別個につくるため、作業をしている最中。海岸についても、計画を策定して人家等に被害がある優先度の高いところから整備をしていく予定。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 29 ページの横断面図は、低水路が特別に平たい場所なのか。沖田川は全断面、こういう平たい河床なのか、それとも 3k300 を選んだら平らだっただけなのか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> その通り。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> この整備計画の中に横断面図が入ってくるのはここだけ。印象として、沖田川はこの様に平たい川だと感じる。何かほかに適当な断面はなかったのか？あまり気にすることでも無いと思うが。 <p style="text-align: center;">【鳴子川について】</p> <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 18 ページの流量配分図は足し算がわからない。本川が 160m³/sec で、中山川が 100m³/sec で、鳴子川が 290m³/sec、これは正しいのか。残流域からの合流で 30 m³/sec 増えるということで良いか。支川と本川を足して多くて、本川が小さいというのは、いわばピークが違うということで理解できるが、これはちょっと理解し難い。 <p style="text-align: center;">【塩見川について】</p> <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 5 ページの自然環境にアカメが出ていない。ここは宮崎県でも有数なコアマモの群落です。ほかには見ないぐらいの群落ですので、これに関連したアカメの稚魚が非常にたくさんいる。 9 ページに石倉というのがあるが、確かに石倉というのは伝統漁法なので入れておかれても良いが、塩見川の石倉はここ 2~3 年前から始まった
--	--

	<p>ばかり。</p> <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料-2 の確認種数の比較では塩見川がそんなに豊富でない状況だが、塩見川は生息域の条件というのが物すごくいい。魚類の記入が漏れていると話があったが、これは種数のカウントも漏れているのではないか、ちゃんと調査すればもっと確認できるのではないか。その意味で、塩見川がほかの川と横並びで本当に河川特性が表現できているか、大丈夫か。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤岩川の河口部分の右岸や左岸がこのくらい手厚いのに、塩見川の右岸は何もしなくて良いのか。
(7) 今後のスケジュール	<p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の同意が得られないと来年度の予算がもらえない。それまでに国に申請しないといけないというタイムリミットがある。なので、大学の現役の皆さん方は、2月は大変に忙しいというのはわかるが、すき間を見つけて開催させていただきたいと思う。よろしくお願いします。 <p>—以上—</p>